



昭和62年度の行事のお知らせ

昭和62年度には、海邦国体の開催を控えさまざまなイベントが計画されておりますが、当館でもスポーツ芸術の一環として「沖縄の自然・歴史と文化展」と「沖縄近代の絵画」―物故作家―展を開催する予定であります。

その他、61年度に寄贈・購入・収集・移管などにより当館が受け入れた資料を公開する「新収蔵品展」、田名家が所蔵する歴史・美術工芸資料を紹介する「田名家所蔵品展」、天野氏より寄贈のあった陶器コレクションを展示公開する「現代沖縄の陶芸」―天野鉄夫コレクション―の企画展を開催いたします。

また11回を迎える移動博物館は多良間村で開くこととなりました。

多くの皆様のご観覧をお待ちしております。

企画展

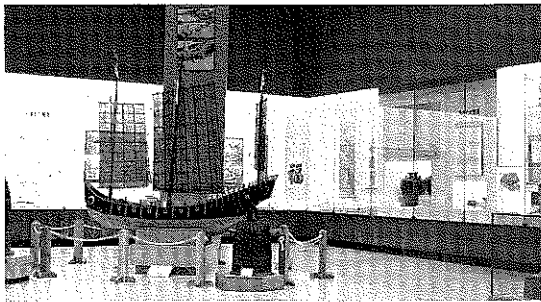
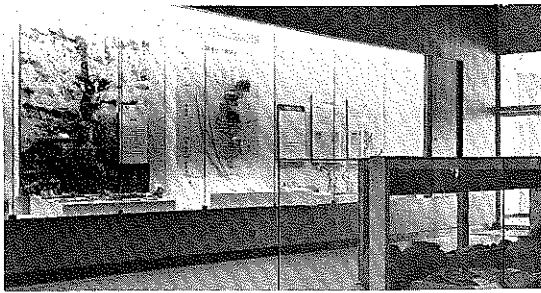
- 新収蔵品展 5月13日(木)～24日(日)
田名家所蔵品展 12月1日(火)～13日(日)
現代沖縄の陶芸 ―天野鉄夫コレクション―
12月18日(金)～昭和63年1月17日(日)

特別展

- スポーツ芸術
沖縄近代の絵画 ―物故作家―
10月20日(火)～11月22日(日)
第11回移動博物館 ―多良間村―
6月6日(土)～7日(日)

なお、文化講座については4ページをご参照ください。

展示室が改装されました



第1室 歴史

【歴史展示室】

〔考古部門〕

今回の展示改装では、①従来の平板的な展示を立体化する。②展示資料（出土遺物）をイラストや写真などを使って説明する。③沖縄諸島と異質な宮古・八重山諸島の先史時代の展示を独立させる。④グスクのコーナーはグスクを拡大した写真をバックに配置して展示効果を高める。⑤貝塚時代を道具（土器など）、住居、葬制、食料、遺跡の立地などを写真パネル、イラストなどによって生

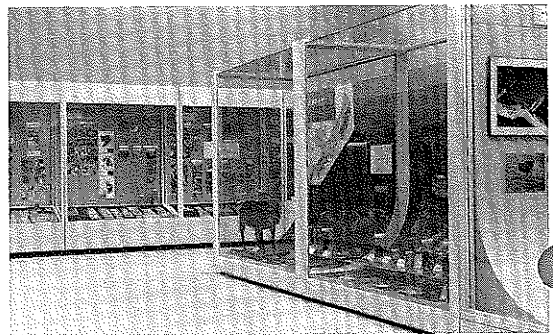
活を表現した。などの展示を心掛けた、今回の展示改良によって以前よりは理解しやすくなったと考えます。

〔歴史部門〕

今回の展示室改装では、統一国家の成立から現代までを歴史の流れに沿って展示し、沖縄の歴史がいかに展開されたのかを、モノを通じて理解してもらうことに主眼をおきました。とくに変化したことは、大型写真パネルを活用してビジュアル展示をこころがけたことです。統一国家を示す首里城正殿、ノロ、首里那覇港図などがそれにあたります。また、沖縄の「大交易時代」を象徴する「万国津梁の鐘」をロビーから展示室に移動しました。これまで近代から現代にいたる展示スペースが少なかったのですが、今回の改装で現代までの展示が充実したことも特徴の一つです。

【自然史展示室】

自然史展示室は、今回の展示替えて以下のようにになりました。



第2室 自然史

導入展示として「沖縄の自然」のコーナーを設け沖縄県の位置図に琉球列島の地史の変遷図、岩石、化石、地質図その他を展示しました。「環境と生物」のコーナーに鍾乳洞と生物についての展示をふやしました。また、「沖縄本島ヤンバルの自然」「西表島の自然」・「特別展示コーナー」の各コーナーを設けました。「特別展示コーナー」にはヤンバルクイナ、ヤンバルテナガコガネについて展示をしました。

その他民俗室の一部が少し変わりました。

日本生命財団より寄贈予定図録完成

日本生命財団（有澤廣己会長）から沖縄県の「沖縄県立博物館総合案内書」三千五百二十冊が贈られることとなり、その図録の準備をしまいりましたが、このほど完成し、4月の贈呈式を待たばかりとなりました。

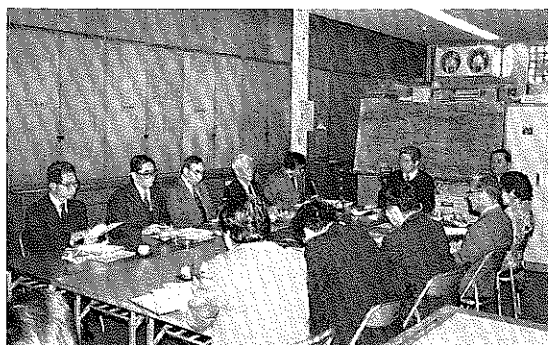
なお、三千冊は一般入館者へ販売される予定であります。

博物館協議会開催

館長の諮問機関である博物館協議会（安次富長昭会長）が去った3月4日(木)に開催されました。協議会は、学識経験者4名、学校教育関係者3名、社会教育関係者3名の10名で構成され、博物館の運営に関して館長に意見を述べていただく機関です。

今回の協議題は「新博物館建設基本構想の検討」と「博物館の行事について」の二題について検討していただき、つぎのようなご意見をもらいました。

- フィリピンや東南アジア等の国々も視野にいれた構想をもつべきだと思う。
- 学芸員の研究室を十分に確保し、外国人の研究者の受け入れも十分に配慮してほしい。
- 近代展示方法に充分対応するには、コンピューターの活用が必要だと思う。
- 県立博物館の性格の中に地方施設への指導もはっきり明記してほしい。



- 児童生徒が親しめる施設を目指してもらいたい。
- 国際交流関係の専門職員も考えていいのではないだろうか。
- 基本構想が博物館だけの考えが固まりすぎないように留意して、県民参加を強調してもらいたい。

天野氏より陶器コレクション寄贈される



沖縄県の林業振興・糖業振興に多大な功績を残し、また沖縄県文化財保護審議委員として、本県の文化財保護行政に寄与した故天野鉄夫氏が生前収集した陶器のコレクション、1588点が当館に寄贈されました。「生前からの本人の意志です。多くの方に大切にいただけたら幸いです。壺屋の皆様方への恩返しの意味も込めて」と昨年12月12日、県教育長室にて天野ハルさんから教育長に目

録が手渡されました。

天野コレクションは生前・戦後の壺屋を中心とした陶器で、人間国宝の金城次郎氏や故新垣栄三郎・故小橋川永昌氏や現在活躍している陶工達の作品が多く含まれており、特に金城氏の作品は壺屋時代から読谷村に移り作陶したものであり、これらは戦後の壺屋陶器の歩みを知るうえで、欠くことのできない貴重な資料です。

同コレクションは企画展「現代沖縄の陶芸」—天野鉄夫コレクション—として昭和62年12月18日(金)～昭和63年1月17日(日)にかけて、一般公開いたします。展示品は金城氏の作品を中心に故新垣栄三郎・故小橋川永昌氏などできるだけ多くの陶工達の作品を展示する予定です。

なお、博物館文化講座の一環として、1月16日(土)に展示解説会を計画しております。

昭和62年度 博物館文化講座へのご案内

第148回 発掘された首里城正殿跡

日時：4月18日(土) 2:30～4:30

*首里城正殿の発掘調査について、話した後に現場の説明をおこなう。

第149回 沖縄のかじ屋

日時：5月23日(土) 2:30～4:30

講師：朝岡康二（県立芸術大学教授）

*沖縄の伝統的なかじ技術を本土や中国、東南アジアと比較する。

第150回 沖縄の化石人たち

日時：6月27日(土) 2:30～4:30

講師：知念 勇（県立博物館学芸員）

*県内から出土した旧石器時代人について、港川人などの化石を見ながら解説する。

第151回 紅型教室 定員：20名

日時：7月24日(金)～26日(日) 2:00～4:30

講師：藤村玲子（染色家）

*小学校高学年～中学生を対象に筒描きの技法で藍染めの紅型を染める。

第152回 民具教室（わら細工）定員：親子30組

日時：8月2日(日) 2:30～4:30

講師：上江洲均（県立博物館副館長）

*ワラを使った民具（ぼうき・馬など）をつくる

第153回 拓本教室 定員：20名

日時：8月15日(土) 2:00～4:30

講師：崎間麗進・与那嶺美和子

上江洲敏夫（県立図書館専門員）

*拓本の採り方を分かりやすく指導する。

第154回 沖縄織物の図案（御絵図）定員：30名

日時：9月19日(土) 2:00～4:30

講師：大城志津子（県立芸術大学教授）

*当館所蔵の御絵図を中心に沖縄の絣文様について解説する。

第155回 「沖縄近代の絵画」展示解説会

定員：30名

日時：10月24日(土) 2:30～4:30

講師：上山泰治（琉球大学助教授）

*展示をわかりやすく解説する。

第156回 北部史跡めぐり 定員：45名

日時：11月8日(日) 8:30集合

講師：知念 勇（県立博物館学芸員）

*今帰仁グスクを中心として、北部の史跡を解説する。

第157回 「田名家所蔵品展」展示解説

定員：30名

日時：12月5日(土) 2:30～4:30

講師：田名真之（那覇市文化振興課）

*展示資料を解説する。

第158回 「現代沖縄の陶芸」展示解説会

定員：30名

日時：昭和63年1月16日(土) 2:30～4:30

講師：宮城篤正（浦添市立図書館）

*展示を見ながら現代沖縄の陶器の流れを解説。

第159回 ボルネオの熱帯降雨林

日時：2月6日(土) 2:30～4:30

講師：宮城泰一（琉球大学講師）

*ボルネオの熱帯降雨林と亜熱帯降雨林の違いをスライドを用いて説明する。

第160回 ヤンバルの自然

日時：3月5日(土) 2:30～4:30

講師：宮城邦治（沖縄国際大学助教授）

*ヤンバルの動物・植物の紹介とその保護について説明する。

沖縄県立博物館だより No.27

発行年月日 昭和62年3月31日

編集・発行 沖縄県立博物館

住所 〒903 那覇市首里大中大町1-1

Tel 0988-86-4353

84-2243